

研究計画書

1	研究の名称	院外心停止における神経学的予後と心停止から経皮的人工心肺補助装置確立までの時間の関連に関する研究
2	研究の実施体制	東京都立墨東病院救命救急センター 湯川高寛、他
3	研究の背景、目的及び意義	<p><u>研究の背景：</u> 当院救命救急センターでは、院外心停止のうち、可逆性病態が予想される症例において、一定の基準を満たした症例に対して経皮的人工心肺補助装置を用い心肺蘇生術を行なっている。過去5年間の実績では、これらの治療介入を行なった患者の約1割強が大きな後遺症なく社会復帰を遂げている。</p> <p><u>目的：</u> 院外心停止症例の、</p> <p>①退院時の神経学的予後と、心停止から経皮的人工心肺補助装置確立までの時間に、関連性があるか</p> <p>②退院時の神経学的予後良好群の独立予後因子の項目について後方視的観察研究を行い統計学的に解析した。</p> <p><u>意義：</u> 院外心停止に対する経皮的人工心肺補助装置を導入した心肺蘇生法の時間的な導入基準を明らかにする。</p>
4	研究の方法及び期間	2011年1月1日から2015年12月31日
5	研究対象者の選定方法	上記期間内に当院に搬送された院外心停止のうち、ある一定基準を満たし、経皮的人工心肺補助装置を導入し、蘇生に成功した症例。
15	研究に関する研究成果の公表方法	Scandinavian Journal of Trauma, Resuscitation and Emergency Medicine への投稿